

第69回 国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）参加結果 概要①

- 2026年6月10日から18日まで、ウィーンにおいて、第69国連宇宙空間平和利用委員会（UNCOPUOS）が開催され、約110か国の加盟国が参加。外務省、JAXAとともに宇宙事務局も日本代表团として参加。
- 今次本委員会の会期中、プレナリーセッションの他、宇宙状況把握（SSA）専門家グループ、月活動の協議に関するアクションチーム（ATLAC）や宇宙活動の長期的持続可能性（LTS）に関するワーキンググループ等の議論が行われた。
- 日本及び国連宇宙部が共催し、「Challenges in Space Debris Mitigation and Remediation: Governmental and Non-Governmental Perspective（スペースデブリ低減と除去の課題：政府と民間企業の観点から）」と題したサイドイベントを共催、宇宙デブリに係る我が国のイニシアティブを含め、宇宙分野における日本の官民の取組を発信。
- 本サイドイベントにおいては、樋口参事官が、宇宙政策に関する政府の体制について紹介した上で、日本のスペースデブリへの対応として、CRD2（商業デブリ除去実証）の取組、日本の軌道上サービスガイドライン、衝突回避ガイドライン等の紹介を行ったほか、パネルディスカッションにも参加した。



プレナリーセッションの様子



日本・国連宇宙部共催 サイドイベント



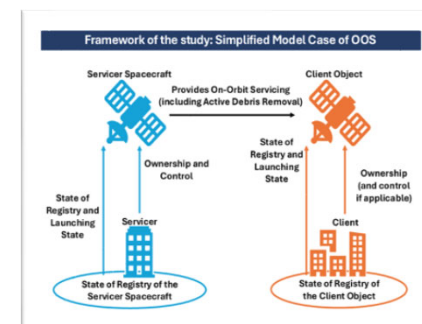
日本・国連宇宙部共催 サイドイベント

第69回 国連宇宙空間平和利用委員会（COPUOS）参加結果 概要②

- 国際的な軌道上サービスに関する検討事項に関するテクニカルプレゼンテーション（6月11日）として、樋口参事官から、国際的な軌道上サービスを将来実施する際に、国家及び企業を含むステークホルダー間で調整が必要となる事項の明確化を目指す国内の検討状況について加盟国に紹介・共有した。今後も検討状況をCOPUOSに共有していく予定。

（主な内容）

- 日本の軌道上サービスガイドラインの概要
- 国内の検討の状況
 - 検討のフレームワーク
 - 用語の定義
 - 国際的な軌道上サービスの運用フェーズ
 - 初期的な検討結果の共有



検討のフレームワーク（プレゼンのスライドより）

- テクニカルプレゼンテーションでは、日本の事業者による事業紹介、米国商務省からTraCSS（宇宙交通調整システム）の最新状況について紹介等があった。
- 英国は、複数の登録国が関係する軌道上サービスについて、Regulatory Sandboxのフェーズ2に関するワークショップ（招待制）とサイドイベントを実施。宇宙事務局からも参加した。



テクニカルプレゼンの様子



プレナリーでの日本のステートメント



海部ウィーン代表部大使と